



名解説者になろう — 鑑賞「真珠の耳飾りの少女」 —

千葉県立浦安南高等学校 大野 優子




■題材設定の理由

学習指導要領では「鑑賞」ということが明記されていますが、生徒からは「鑑賞って何?」「ビデオ見るだけでしょう?」「つまらない。鑑賞をやるくらいなら何か作っている方がいい」という声が多く聞かれます。また現場の教員の声としても、「何を扱ってよいかわからない」「時間数の確保が難しい」という話を耳にします。教師が知識を伝えるのではなく、生徒に鑑賞は面白い!と思ってもらえ、授業が盛り上がるような題材はないかと考え、自分が感動し、生徒もどこかで目にしたことがあるであろうフェルメール作「真珠の耳飾りの少女」を題材として取り上げました。グループワークと映像資料、当時の道具を手にとってみる活動を取り入れ、活発な鑑賞の授業を目指しています。

■この授業で付けたい力

作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める。

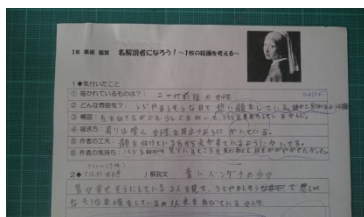
■展開

活動	ポイント	時配
1. 「真珠の耳飾りの少女」(複製ポスター)を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を取り、じっくりと見る。 まず作品に関する情報を与えず、よく観察させる。 	10分
2. 見えたものや考えたことワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使い、項目ごとに気付いた点を各自が記録する。 作品の横にキャプション(自分なりのタイトルと解説)を付けるつもりで、解説文を作成する。 	15分
3. 班になり、各自の解説を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 全員が参加出来ているか机間指導する。 	10分
4. 班で話し合い、1班で1つの解説を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> 活発な意見交換ができていないか。 意見を尊重しあい、共感の多い意見などを基にまとめさせる。 話し合いを進行する役、記録、発表者というように役割分担すると良い。 	15分
5. 1班ずつ全体の前で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> お互いの意見を聞き、尊重できているか。 気になった意見等メモを取らせる。 	10分
6. 他の意見を聞いた感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入する。 	5分
7. タイトルと作者について説明し、映画「真珠の耳飾りの少女」を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> フェルメールの他の作品も提示する。 映画はまずあらすじを簡単に説明、フィクションであることを伝え、当時の風俗の参考として一部(カメラオブスキュラやフェルメールのアトリエのシーン)を見せる。 	20分
8. 実際にカメラオブスキュラを使ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班に1台配付。しばらく様子を見た後、使い方を指示。窓の外など明るい方へ向けるよう指導する。 全員が手に取っているか。 カメラオブスキュラの原理を説明する。 	5分
9. まとめの感想を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入する。 	10分

■準備するもの

ワークシート、「真珠の耳飾りの少女」複製、テレビ、映画「真珠の耳飾りの少女」DVD、カメラオブスキュラ(コクヨ「フェルメールのカメラ箱」)、PC、プロジェクター、スクリーン

■ワークシートの例→



■観点別評価

①美術への関心・意欲・態度	②鑑賞の能力
作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、作品について理解しようとしている。	作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その特徴を捉えて分析するなどして作品に対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解している。

【授業を終えての生徒の感想】

- 1枚の絵からこんなに色々なことが考えられるなんて思わなかった。
- たまにはこういう授業もいいかも。また受けてみたい。
- 周りの人が書いた解説を聞いてそんな見方もあるのか！と思った。
- カメラオブスキュラがすごかった！外の景色がきれいに写っていた。色々な物を使って描いていたのだなと思った。
- 映画で、絵具を作るシーンがあったけど、すごく手間がかかって大変そうだった。昔はああやって描いていたんだな。
- この絵にはせつない恋みたいな物語がある気がした。
- 「真珠の耳飾りの少女」はすごくきれいでこっちを見つめていて、いつか本物を見てみたいと思った。
- こちらに気持ちが伝わってくるような絵があるのだと驚いた。
- 作者は本当はどんなことを思ってこの絵を描いたんだろう。

【おわりに】

「真珠の耳飾りの少女」は鑑賞経験の少ない本校の生徒たちにとって最初の鑑賞の授業として大変良いテーマであったと言えます。描かれているのは、一人の美しい少女、そして背景は黒一色。極端に要素が少ないため、否応なく絵をじっくり観察することができるのです。作品を提示するとき、同時に「洛中洛外図」やボッティチェリの「春」を紹介して、その対比も体感してもらいました。あまり真剣に取り組んでいるとは言えない生徒達も、「真珠の耳飾りの少女」をじっと見つめていると、モチーフの多様さに惑わされるところがなく自然と細部や作者の表現に目がいきます。

今まで鑑賞にあまり触れてこず、絵は「モナ・リザ」しか知らないといった生徒たちが、予想以上に興味を持って授業に参加していました。こういう授業ならまたやってみたい、美術は絵を描くだけと思っていたから新鮮だった！本物をぜひ見てみたいという感想をもらいました。生徒によってはどこの美術館に行けば見られるのか？と聞いてきたり、長期休みにオランダに行く予定があるので必ず見てくる！と言ってくれた生徒もいました。現代の刺激的な表現に慣れ、絵は難しく古いものと思っていた生徒たちが1枚の絵をきっかけにさまざまな事を考えてくれたことがまず何よりの成果ではないかと思います。

今後は日本美術や立体作品にも幅を広げ、将来その多くが制作者ではなく鑑賞者となる生徒たちに、積極的で魅力的な鑑賞の授業を取り入れていきたいと考えています。

【参考】美術手帖 2012年6月号、映画「真珠の耳飾りの少女」（販売元：メディアファクトリー）【図版出典】1. 光村図書「美術1」2, 4, 5, 6、筆者撮影3. 2004年映画「真珠の耳飾りの少女」DVDカバー筆者撮影